

### CBそしてCBR 挑戦と進化の系譜

Hondaは、幅広いレース活動を一貫して継続しています。そしてHondaのスポーツバイクは、常にレースと不可分な関係の中で進化してきました。

その中で最も長い歴史を持つ“CB”シリーズは、1959年発売のベンリィスーパースポーツCB92から始まりました。CB92は10,500rpmで最高出力を発生し、リッターあたり100PSを越える当時としては異例の高性能マシンでした。それは公道走行可能な量産車であると同時にさまざまなレース用純正部品がラインアップされ、レースに挑む多くのライダーに勝利の喜びを提供しました。

Hondaはまた、同年よりマン島TTレースに参戦。創業者の夢である「自分で作ったマシンで全世界の競争の覇者となること」を目指して挑戦を開始し、その後FIM※ロードレース世界選手権のみならず、FIM世界耐久選手権、FIMスーパーバイク世界選手権などの量産市販車で参戦できるプロダクションレースにも挑戦してきました。

※ Fédération Internationale de Motocyclisme (国際モーターサイクリズム連盟)の略称。

■1959年 ベンリィスーパースポーツCB92



■1967年 RC181



黎明期のHondaレーシングマシンが“精密機械”と驚きをもって世界から注目される中、1960年代にかけてWGPを破竹の勢いで制し、1969年には「既にレースで十分な信頼性を確立した」直列4気筒エンジン(直4)を持つ世界初の量産二輪車ドリームCB750FOURを発売。1976年にはそれをベースにDOHC化したワークスマシンRCBでヨーロッパ耐久選手権に挑戦し、1976～1978年の3年間で26戦24勝という圧倒的な戦績を収めました。そしてRCBと並行開発されたCB750/900Fを1979年に発表。CBはHondaを代表するスポーツバイクブランドとして広く世界に根付いていきました。

■1969年 ドリームCB750FOUR



■1976年 RCB



■1979年 CB750F

